

平成 28 年度 記者懇談会（第 8 回）の記録

日 時 平成 28 年 12 月 22 日（木）午後 3 時 30 分
場 所 水道庁舎 4 階 会議室
記者数 5 人
同席者 阿部副市長、天野副市長、総務部長、環境保全課長、教育部長
次 第 1 平成 29 年「成人の日記念式典」について
2 アスベスト含有調査に係る対応について
3 その他について



1 平成 29 年「成人の日記念式典」について

説明内容

(市長)

今年最後の定例記者懇談会になりました。今年はいろいろお世話になり有難うございました。

それでは、年明けの 1 月 8 日（日）に開催をいたします平成 29 年「成人の日記念式典」についてご説明を申し上げます。

会場は、前年同様イベントホール赤れんがで、開式時刻も同じく午後 4 時からとなっております。

来年の岩見沢市の新成人でございますが、12 月 1 日現在の人数で申し上げますと、男性 369 人、女性 398 人で合計 767 人の方が新たに成人を迎えます。前年と比べますと 24 人の減となったところでございます。

また、記念式典の開催に当たりましては、JC と二世会といった青年団体のほか、新成人が 12 名、また公募の方 3 名によります 20 名の実行委員が中心となりまして、実行委員会形式で企画から運営までを行っているところでございます。

記念式典は、例年通り 2 部構成といたしまして、1 部で式典を行った後、2 部は新成人の交流時間とすることとしております。

1 部の式典においては、前年と同様に、新成人の決意表明や恩師の方からのお祝いビデオレターを上映し、2 部は、内容を少し変更いたしまして、新成人の交流時間としながら、ステージ上でのインタビュー形式で、近況や夢などを語ってもらう新成人中心の演出と今年となっております。

以上でございます。

質疑応答

(読売新聞)

細かいことなんですけれども、767 名というのは市内の新成人でよろしいですか。

(市長)

そうです。市内に住民登録してらっしゃる方ですね。ただ岩見沢市の場合は、岩見沢にゆかりのある方、例えば市内の学校に通っていた方とか、市内で働いている方とかそういった方も自由に参加できる成人の日記念式典というふうになっていきますので、実際の参加人数はそういった方も含めてということになるかと思えます。ただそういった方々が例年何人くらいいるかということは受付の段階では把握できていないので、ご了解いただきたいと思います。今年は 2 部の作り方を実行委員会の方で去年とは大きく変えました。去年はダンスの披露だとかパフォーマンスをやりましたけれども、今年は新成人の夢とか希望とか、そういうインタビュー形式の演出というようなことだそうでございます。

2 アスベスト含有調査に係る対応について

説明内容

(市長)

それでは、アスベスト含有調査等、空気測定も含めた結果と今後の対応についてお知らせをさせていただきたいと思えます。

学校教育施設については全て報告申し上げておりますので、学校教育施設を除く公共施設のアスベスト含有調査でございます。専門業者に委託をいたしまして 11 月 25 日から煙突建材中のアスベスト含有調査と空気環境測定調査を実施しているところでございます。

このたび、煙突建材中のアスベスト含有調査の結果が出ましたのでお知らせいたしたいと思えます。

煙突建材中の含有分析調査では、今月 12 月の 5 日と 6 日の二日間で調査対象は 19 か所でございます。資料に記載の 19 か所なんですけれども、そこでサンプル、検体を採取いたしまして分析をした結果、9 か所につきましてはアスベストが含まれていないということで、10 か所の煙突建材にアスベストが含まれていることが判明いたしました。

また、空気環境測定調査につきましては、可能性のあるものも含めて全て調査をすることといたしましたので、順次試料、空気ですけれども、採取を実施しているところでありますが、12 月 21 日現在、空気環境測定の調査結果の出た 2 か所については、いずれも不検出という結果となりました。それ以外施設でございますが、1 月末までには調査結果が出て来る見込みでございます、あらためてご報告をしたいと思えます。

それから対応でございますが、煙突内部の建材にアスベストの含有が確認された 10 か所については、空気環境測定調査の結果に基づきまして、北海道が定める「道有施設における石綿含有保温材等点検マニュアル」に準じて適切な対応を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

質疑応答

(北海道新聞)

残りの 8 か所を 1 月下旬までに調査を終えるということでしょうか。

(市長)

そうですね。調査中で結果の出ているか所は 8 か所ですね。これが 1 月末までに順次出てきますので。

(北海道新聞)

それで、調査結果で含有しているとわかったけれども、空気調査で不検出となった場合の今後の措置はどうなりますか。

(市長)

それぞれ施設毎で使っている、使っていないということがあるので変わってくるんですけれども、1 番から順次申し上げますと、軽費老人ホームは建材中のアスベストは無し、崩落はしていない、可能性があるということで空気調査もしていましたけれども、不検出ということで今後は対応はしないということです。表の中の煙突建材中の

アスベストの有無の無というものについては、空気測定の調査中のものもありますけれども、基本的に対応をしないというかたちになります。鉄北地域振興センターはアスベストの含有も有り、崩落もあったんです。空気は調査中なんですけれども、この煙突自体は使っていないので封鎖をします。北村温泉についてはアスベスト無しですから無しのはいいですね。4番のイベントホールなんですけれども、アスベストの含有はあるけれども崩落が無いということなので、崩落の有無等を今も定期点検をしていく。5番の公設道央卸売市場は建材中のアスベストの含有が有り、崩落もあるんですけれども、煙突自体を使っていないので2番と同じように煙突を封鎖する。であえーるは無し無しですからいいですね。7番の栗沢文化センターは建材中にアスベストの含有が有り、崩落も有ったと、ただこの施設については施設の建て替え予定ですので、空気調査の結果を見てからの判断となりますが、空気濃度測定の継続ということは今も考えています。9番の栗沢福祉会館ですがこれも建て替えということになりますので同じ考え方です。11番の消防本部から13番までの3つの消防関連施設ですが、建材中のアスベストの含有が有りで崩落も有りで空気測定については調査中ですが、消防本部については今新しい消防庁舎を建設中ですので空気測定の結果を見ての最終判断にはなりますが、測定を継続していく。12と13の栗沢支署と美流渡分遣所ですけれども、これは今後も使う施設ですので煙突の改修予定と。ハロンズ岩見沢も建材中のアスベストの含有が有り、崩落も有り、空気測定は調査中でありまだ結果は出ておりませんが、こちらも改修予定と。16から18まではアスベストの含有が無いということで、最後の19番の栗沢病院については建材中のアスベストの含有があって、崩落もあったと、ただ空気調査の結果は出ておりますので、不検出ということですので、これは改修予定です。

(北海道新聞)

19番の栗沢病院は不検出なのに改修予定というのはどういうことなんでしょうか。

(市長)

19番の栗沢病院についてはまずアスベストが有ります、崩落も有ります、ということなんで、崩落があるということで改修予定なんです。

(北海道新聞)

旧三館と北村トレーニングセンターについてはもう封鎖したということでしたか。

(阿部副市長)

封鎖ということです。

(プレス空知)

封鎖というのはいつなんでしょうか。

(市長)

旧三館と北村トレーニングセンターは12月3日と10日です。

(読売新聞)

イベントホールももしも崩落が確認された場合は改修が決定なんです。

(阿部副市長)

その時点でそうなります。

(プレス空知)

改修予定というのはどういう内容を想定しているのでしょうか。

(市長)

建物一つ一ついろいろ要素が違うんですけども、一番簡便な方法としてはアスベストを使わない煙突を付けてそれに切り替えると。施設によっては夏場ボイラーを使っていない時期があるのであれば、煙突自体をなおすという考え方がないわけではないです。それは施設によってですが、今ある煙突を使わないということで改修を行うということです。

(プレス空知)

改修というのは、既存の煙突を撤去するというところまでを含めての改修になりますか。

(阿部副市長)

建物によっては高さが低い建物であれば、単純に横に鉄かなにかの煙突を建てるだけで済みますが、何階建てという高い建物ですと仮設の煙筒といっても基礎が大きくかかるので、古い煙突を撤去して新たにそこに作るということもあり得ると思います。これは建物一つ一つを設計してみなければと思います。

(プレス空知)

今後の対応の部分で、煙突の封鎖、改修予定というのはいずれどういう予定でいつくらいまでに改修などを始めるのでしょうか。

(阿部副市長)

そこまでがちょっとしたものはまだ決まってはいません。というのは、ある程度設計をやってみてということで、今すぐ設計にかかれるかどうかは、業者さんと交渉してからだと思います。

(市長)

今、空気測定の調査結果の出たものについては全て不検出という状況にあるので、直ちという状況にはないんですよ。これが順次出てきて、空気環境測定でも検出された場合にはその時点でボイラーの使用を中止して必要な措置を速やかに取っていくことになる。現状で出ていないものについては、例えば栗沢病院なんかは不検出なんですけれども、改修をするのでそれまでの間は3か月毎の空気測定をやってできるだけ早い時期に改修を行うと。空気環境測定の結果にもよるといいます。

(阿部副市長)

例えば栗沢病院ということになりますと、暖房ですとか給湯ですとかそういうことで今使っています。そうなりますと冬の時期に改修工事ができるかと言えばこれは無理だろうと思うんですよ。少なくとも暖房として使用しない時期でなければできないということがありますので、それぞれの施設毎でいつの時期がというのは各施設と調整をしながらということになると思います。

(プレス空知)

例えば栗沢病院だといつくらいまでに設計を進めていってということになりますか。

(阿部副市長)

少なくとも栗沢病院に関して言えば、逆算して来年度の暖房を使う時期の前には片付けておかなければという気がします。

(市長)

改修予定については来年度中にはということになるろうかと思います。

(プレス空知)

消防本部と栗沢文化センターなどの空気濃度測定の継続というのはどれくらいの頻度なのでしょうか。

(阿部副市長)

崩落の有るものについては基本的に3か月毎にということで、崩落の無いものについては、北海道さんのマニュアルによりますと確か年に1回だったかと思います。

(プレス空知)

2番と5番の煙突封鎖も来年度内にやるんですか。

(市長)

2番の鉄北地域振興センターは封鎖するんですけども、現在煙突を使用していない状況なんです。5番も同じです。5番は使用頻度自体が年に1回から2回くらいしか使わないので、それは代替措置で対応するという事なのでもう使わない煙突になりますし、急いでということにはならないので、雪が解けてから新年度の対応になるろうかと思います。

3 その他について（記者からの質問）

質疑応答

(毎日新聞)

岩見沢の人口動態なんですけれども、一時期社会減が止まって、市内からの転入転出で転入の方が多かった状態が続いていた時期があったと思うんですけども。

(市長)

議会でもお答えしたんですけども、1月から11月までの人口動態の中の社会動態、社会増減で確か去年の1月から11月までは636人のマイナスなんです。今年はそれをほぼ半減するマイナス313人までに抑え込めたということで、増が減になった訳ではなく、減の度合いを半減したということです。

(毎日新聞)

移住・定住の対策がすぐできる訳ではありませんが、新年度予算はこれからだと思いますが、市長の方で社会増や自然増の対策など考えているところはありますか。

(市長)

具体的な議論はこれからになりますけれども、人口減少対策の中核は総合戦略事業の位置付けになるかと思っておりますけれども、昨年よりは事業数は若干増えるかもしれませんが、予算的にもさらに拡充したかたちでの事業構成になるのかなという気はします。ただ、これもこれからです。

(読売新聞)

JR北海道から何か話は来ていますか。

(市長)

JR北海道からはその後何の話も打診もありません。

(毎日新聞)

深川市が協議会に参加しないで沿線自治体で同時に対応策を考えるという動きをされていますが、そういったことについて室蘭線も JR 単独では維持困難な路線として挙げられている以上、対応はすべからくしていかなければならないと思うのですが。

(市長)

深川留萌間は廃止という路線なんです。廃止に反対だということで協議体を作る、沿線自治体プラス妹背牛町も連携をしている。北空知として反対をしていくと。そういう協議体を作って情報の交換と情報の収集と協議を図っていくと。室蘭線の場合は単独で維持困難ということで、それ以上のそのことに関わる具体的な提案はまだ受けていないので。沿線自治体、特に南空知では首長同士とか担当同士では情報の共有と収集をやっていきましようということで既に話しをしているんです。更に踏み込んでいうと、東胆振の自治体とも南空知の自治体をそれぞれチャンネルにしてお互い情報の共有を図っていきましようという状況にはなっています。ただ協議会を作って云々と言っても具体的なご提案をいただいているので、赤字の一部を補てんする上下分離方式とかという新聞報道はありますが、それ以上のものはお聞きしていないので。

(読売新聞)

情報共有を図るということで、合意しているような感じだと思うのですが、この後深川のような協議体を作るということになるのですか。

(市長)

いえ、協議体として反対をするというような協議体ではないと。お互いにそれぞれの関係自治体として情報の共有はしっかり図っていきましよう。

(北海道新聞)

東胆振とももう事務レベルでは接触されているということですか。

(市長)

東胆振は室蘭線は一本で繋がっていますし、それぞれの情報共有は図っていきましようというようなお話は私からもさせていただいたと。

(読売新聞)

公式に市長さんや首長さんの方々が集まって協議するような場はあるのですか。

(市長)

今のところそこまでは考えてはいません。

(毎日新聞)

11月18日にJRの社長自らがああいった会見を開いて路線区を公表した訳ですよ。18日以降全く動きが無いということは不自然というか、一体どうなっているんだというふうに思ったりもするんですけれども、それはJRをただ待つということになりますか。

(市長)

早くテーブルに付くことが得か損かという議論もありますから、こちらにしても。その話以降音沙汰が無いけど一体どうなっているんだということをごちから言う必要も無いと思っていますし。

(プレス空知)

JR が一定の方針を打ち出した、岩見沢も対象になっているにも関わらず、その後何らモーションもないし、話し合いの打診というか日程調整の申し入れも一切ないとするならば、市長としてそういう対応に対して何かしらそういった感情というのは抱かないものでしょうか。

(市長)

特に抱かないです。一度来られていますけれども、その後の具体性のあるお話は承っていないので、それはいずれ時期が来たらいただけるのだと思います。そういったお話があるのであれば、説明はきちっと聞きたいと思っていますけれども。現時点でその対応自体がどうかとそういったことを考えてはいないです。JR さんの事情としても廃止路線とか、急を要するとかそういったものもおありになるだろうなというのは想像していますけれども。

(プレス空知)

単独では維持できないんですとポンと投げてはもらったけども、その後の反応が全くないというのは一体どうするんだというのは、ただひたすら待ってなければならぬのかなど。

(市長)

それでそれぞれ沿線自治体間の情報の収集と共有を図りましょうという対応をしていますね。これが廃止とか、上下分離方式で 10 分の 8 を自治体で持ってくださいということでしたら、それは反対だということ協議体を作りましょうとかということにもなるのかもしれませんが、それは上下分離方式もありますとか、経費の削減策もありますとか、乗客を増やす方策もありますとか総論的なお話を承っただけなので。11 月に加えてこういうお話をということがあるのであれば、私は責任を持って説明をお聞きしようと思っていますけれども。

(プレス空知)

JR 北海道さんの方針に先回りをするようなかたちで、利用を増やすような方策をちょっと考えましょうか、そこを考えていけばもうちょっと自治体として有利な条件を提示することができるのではないかと、そんな話し合いをしていこうというような考えは。

(市長)

それはお互いが責任を持って協議する。特に今北海道がワーキングチームをやっている高橋知事も 1 月末までに一定の方向性を出すと、方針を出すというふうにおっしゃっていますので、それは十分重要な方針だと思っていますけれども。各沿線でも違うんですね。無くなる路線ではないというベースはあるので、金銭負担をどれだけするんだという。室蘭線の現実の赤字は実際にどれだけなんだと。年間例えば 10 億円の赤字なんだと。それを補てんしてくださいと言われても補てんできる金額ではないので。現実的にどうなのかというのは実際にお話を聞かせていただかないと、と思っています。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)